

くものいと

第 6 号
30-IX-1988
関西クモ研究会

茶園のクモ余話

奈良県農業大学校 寺田孝重

第4話 閑話休題

前回まで3話にわたり、茶園のクモ相を調査した時の副産物とでも言える話題を皆さんにお届けしてきましたが、ちょっと休憩を頂いて、昨秋ヨーロッパ諸国を歴訪した時のクモの印象を報告したいと思います。

昨年(1986)10月15日から11月10日にかけて、ヨーロッパの花弁産業と花弁園芸教育システムの調査と言う目的で、イギリス・イタリア・フランス・オランダを歴訪しました。通過国はこの他に、西ドイツ・スイス・リヒテンシュタインで、ベルギー、オーストリアは本当に列車の窓からのみ眺めてきました。

仕事の関係上、訪問先は花弁園芸の学校・試験場・種苗会社・市場などでしたが、僕のことですから、暇々になるべくクモ君との接触を試みてきました。

(1) イギリスで

英国では、ロンドンとその近郊のサリー州に行きました。ロンドンは大都会ですが、市中にハイドパークやグリーンパークといった大公園や名前も分からない、それでも10a位はある公園があります。泊まったホテルの近くにもこの種の公園があり、大きな木立の下に遊歩道とかん木と云う自然な形に仕立ててあります。こんな場所の植込みなどでクモを捜しましたが、10月中旬とはいっても、日中でも吐く息が白く見える位でしたから、クモの活動はあまり活発ではなく、ハイドパークとバッキンガム宮横のグリーンパークで数頭の小型のクモを見かけただけでした。

英国での公式訪問先は、サリー州ギルドフォードにあるメリストウッド農科大、ウォーキングの王立園芸協会ウィズリーガーデン付属学校とリッチモンド（ここはロンドンの中心部から地下鉄で30分位）の国立キューガーデン付属学校で、メリストウッド校のゲストルームに泊めてもらって、この三校を巡りました。

メリストウッドは一校で430haもの農場や林地をもつ学校で、田舎の村そのものでしたので、学校のあちこちでクモ捜しをやっていると、先生や学生達が「何をしているのか」とよく声をかけてきました。ここでは、林の中などではあまりとれず、かえって食堂や校舎の周辺でヒメグモの仲間をよくみかけ、2～3頭採集しましたが、同じ種類ばかりかも知れません。他には室内で1頭とりました。

ウィズリーでは、庭園を案内してもらった時にふと見つけたクモを追っかけまわして「You have a strange hobby.」と笑われ、昼食の時の話のネタを提供するはめになりました。キューも宏大な庭園ですが、雨が降ったり止んだりの天候で、温室に入っている事が多く、クモには会えませんでした。『Spiders of Britain and Northern Europe』と云う300頁程のカラーブックを買いました。

（2）大陸へ

イギリスから西ドイツのハンブルグへ飛び、アウグスブルグを経由してスイスへ行きました。

ドイツの町々は、かけ足での通過になりましたし、経度も高くて、イギリスよりもさらに冬のたたずまいが濃厚でしたので、この地域では一頭のクモ君にも出会えませんでした。アウグスブルグからスイスのルツェンへ出て、ユングフラウヨッホへ行くつもりでしたが、列車のコンパートメントで知り合ったウィッテ夫妻のすすめで、リヒテンシュタインのファドゥーへ行きました。リヒテンシュタイン侯のファドゥー城は、アルプスに囲まれた山の中腹にあり、遊歩道で横まで登って行けます。この途中で数頭採集できましたがもう夕暮に近くなっていたので、ほとんどのものは逃げてしまいました。でもこの森のクモ相は豊かなように感じました。

（3）イタリアとフランス

イタリアではサンレモにある国立花卉試験場を訪問しました。寒かった北部に

比べると、この地中海沿岸（リビエラ地方）はまだ海水浴ができる陽気でしたので、これはチャンス到来と、花卉試やバラ農家で一生けん命さがしましたが、意外にクモの姿は少なく、ハエトリグモをとり逃がした時は、案内の栽培部長（この方も一緒になって追いかけてくれたのですが）が非常に残念がってくれました。ただ、この辺りは、大変乾燥しており、日中は暑いので、ひよっとしたら夜行性のものが多いのかも知れません。

イタリアの列車は時間を守らない事で定評がありますが、マルセイユまで乗ったリビエラエクスプレスも遅刻してくれました（ただし、車窓の風景はすばらしかったです）。でも、フランス側のTGV（フランス新幹線）も遅れていたのので、すべり込みセーフでパリへ出発しました。

パリでは郊外のクラウド社と言う種苗会社の研究所や傘下の農場を見学しました。こういった会社は、国立の試験場のように、公式訪問者といえども場内を勝手にフラフラ歩くことはできませんし、案内してくれた人は初対面の人でしたから、行動はつつしんでおりました。でもクモは見当りませんでした。

パリは丁度テロ事件のことで厳戒下でしたし、雨ばかりでしたので、一頭も採集できませんでした。

（4） オランダ

パリからベルギー経由でオランダに出ました。ここが最終、最大の目的地で、スケジュールも少々過密でした。

アムステルダムには約1週間滞在して、各地を廻りましたが、訪問先はほとんど園芸関係の学校でしたので、付属農場では必ずクモ捜しをし、クモの有益性の話しをしたので、案内をしてくれたオランダ農林水産省のヘルムセン氏に、Mr. SpiderまたはMr. Spider Spyのニックネームをもらいました。

地域で多く見られた造網種は、Cross spiderと言う、白い十字形の甲背紋のある種で、これがほとんどでした。その他、ヒメグモの仲間もいましたが、そんなに多くは見つかりませんでした。この他、アムステルダムのフォンデルパーク周辺で、エクステリアのフェンスなどで、少々採集しましたが、これらも Cross spiderかも知れません。

時期が悪くて、ヨーロッパのクモ君達にあまり拝顔できなかったのが残念でし

たが、すこしでも接触できて、楽しい旅になりました。このわずかな採集標本は、八木沼先生に押しつけてあります。

(編集者注) 文中の"Cross spider"は八木沼氏によると、ニワオニグモ *Araneus diadematus* とのことです。

(トピックス) 加村隆英博士誕生

本会会員加村隆英氏は長年ワシグモの研究に携わっておられたが、本年2月に博士論文「日本産ワシグモ科(真正クモ目)の再検討」が京都府立大学農学部を受理された。手薄であった日本のワシグモもようやく加村氏によって明きらかにされつつあるのは喜ばしい。氏のワシグモに関する業績は次の通り。

1. 論文

- 1-1. 1984. 日本のワシグモ類(1). *Atypus*, (85):1-8.
- 1-2. 1986. 日本のワシグモ類(2). *Atypus*, (87):9-20.
- 1-3. 1987. 日本のワシグモ類(3). *Atypus*, (89):1-6.
- 1-4. 1987. Three species of the genus *Drassyllus* (Araneae:Gnaphosidae) from Japan. *Acta arachnol.*, 35(2):77-88.
- 1-5. 1987. Two new species of the genus *Zelotes* (Araneae:Gnaphosidae) from Japan. *Akitu*, (85):1-7.
- 1-6. 1987. A new record of the gnaphosid spider (Araneae) in Japan. *Akitu*, (85):8.
- 1-7. 1987. Redescription of *Odontodrassus hondoensis* (Araneae:Gnaphosidae). *Proc. Japan. Soc. syst. Zool.*, (36):29-33.
- 1-8. 1988. A revision of the genus *Gnaphosa* (Araneae:Gnaphosidae) from Japan. *Akitu*, (97):1-14.

(8頁へ)

中国のクモ新種つづき

しばらく途絶えていたが、中国から次々と発表があり、日本のクモの分類や分布を研究する資料として継続掲載の希望があるのでふたたび続ける。

101. *Cicurina anhuiensis* Chen, 1986. (安徽省屯溪)
102. *Castianeira flavimaculata* Hu, Song et Zheng, 1985. (湖北省武昌、浙江省三門、湖南省華容・平江、広東省四会)
103. *Arctosa serrulata* Mao et Song, 1985. (河南省鄭州)
104. *Allomengea adornata* Zhu, Li et Sha, 1986. (青海省)
105. *Pritha beijingensis* Chen, Zhang et Song, 1986. (北京頤和園万寿山)
106. *Lycosa yaginumai* Song et Zhang, 1986. (河北省安新・山西省臨汾)
107. *Nerienne compta* Zhu et Sha, 1986. (貴州省梵淨山、浙江省西天目山、四川省城山、湖北省武当山)
108. *Lepthyphantes haniensis* Zhu, Wen et Sun, 1986. (吉林省)
109. *Bathyphantes hainiensis* Zhu, Wen et Sun, 1986. (吉林省)
110. *Lepthyphantes aduncus* Zhu, Li et Sha, 1986. (青海省)
111. *Lepthyphantes denticulatus* Zhu, Li et Sha, 1986. (青海省)
〔*L. azumiensis* Oi, 1980と同じでは？〕
112. *Hahnia cervicornata* Wang et Zhang, 1986. (湖南省)
113. *Macrothele quizhouensis* Hu et Li, 1986. (貴州省湄潭県)
114. *Macrothele palpator* Hu et Li, 1986. (貴州省湄潭県、湖北省石首)
115. *Dictyna wangi* Song et Zhou, 1986. (新疆且末県)
116. *Gamasomorpha nigri-lineata* Xu, 1986. (安徽省休寧県齊雲山)
117. *Epectris conjujaingensis* Xu, 1986. (安徽省石台県古手降) 卵蛛科
118. *Floronia zheijiangensis* Zhu et al., 1987. (浙江省末陽県安民郷)

119. *Filistata xizanensis* Hu et al., 1987. (西藏)
120. *Centruerus tianmushanus* Chen et Song, 1987. (浙江省西天目山)
121. *Tricalamus tetragonius* Wan, 1987. (雲南省勐臘縣)
122. *T. papilionaceus* Wan, 1987. (雲南省双江縣)
123. *T. meniscatus* Wan, 1987. (雲南省)
124. *T. albidus* Wan, 1987. (雲南省)
125. *T. longimaculatus* Wan, 1987. (雲南省上允)
126. *T. papillatus* Wan, 1987. (貴州省遵義)
127. *Pritha ampulla* Wan, 1987. (雲南省昆明)
128. *P. spinula* Wan, 1987. (雲南省勐海縣)
129. *Dictyna xinjiangensis* Yong, Wang et Yan, 1985. (新疆ウルムチ)
130. *Leptoneta maculosus* Song et Xu, 1986. (安徽省休寧縣齊雲山)
131. *L. tunxiensis* Song et Xu, 1986. (安徽省屯溪小龍山)
132. *L. hanghouensis* Chen, Shen et Gau, 1984. (浙江省杭州千人洞·臥雲洞)
133. *Alopecosa spinata* Liu et Song, 1988. (四川省鄉城、西藏左貢)
134. *Arctosa laminata* Liu et Song, 1988. (福建武夷山、江西省井崗山)
135. *Arctosa binale* Liu et Song, 1988. (江西省吉安)
136. *Arctosa recurva* Liu et Song, 1988. (安徽省休寧縣齊雲山、浙江省杭州)
137. *Arctosa vaginalis* Liu et Song, 1988. (雲南省勐臘·景洪、貴州省印江)
138. *Hygrolycosa alpigena* Liu et Song, 1988. (四川省折多山)
139. *Acantholycosa triangulata* Liu et Song, 1988. (新疆巴里坤)
140. *Monaeses caudatus* Tang et Song, 1988. (江西省宜豐)
141. *Oxyptila wuchangensis* Tang et Song, 1988. (湖北省武昌)
142. *Synaema zonatum* Tang et Song, 1988. (湖南省大庸)
143. *Thomisus zhui* Tang et Song, 1988. (雲南省勐海縣)
144. *Xysticus albomarginatus* Tang et Song, 1988. (西藏左貢)
145. *Xysticus obtusifurcus* Tang et Song, 1988. (內蒙古伊敏河、吉林省各地)
146. *Xysticus quadratus* Tang et Song, 1988. (四川省理塘噶)
147. *Xysticus torsivus* Tang et Song, 1988. (四川省鄉城、西藏左貢)
148. *Xysticus xizangensis* Tang et Song, 1988. (西藏昌都)

新種以外に新記録種の発表もかなりある。1983年の中国蜘蛛名録中に掲げられているクモのうち日本との共通種は約30%ある。

上記105, 119, 121, 122, 123, 124, 125, 126, 127, 128はカヤシマグモ科のものである。

タテスジハエトリ中国と韓国で

今日まで対馬のみから知られていたタテスジハエトリ *Telamonia vlijimi* Proszynski, 1984が中国（安徽省, 1982）と韓国（京畿道, 1986）から報告されている。本州にも分布するかも知れないが、今のところ対馬海峡が分布境界線となっている。タイプは柴田保彦氏採。

ハラフシグモの2新種タイ国で

小野展嗣氏により、タイ国産のハラフシグモの新種 *Liphistius yamasakii* と *L. jarujini* の2種が発表された。

Ono, H., 1988. Liphistiid spiders of Northwest Thailand. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo. Ser. A, Vol. 14, No. 1: 35-41.

ソ連の極東のハエトリグモと篩板類の報文

ソ連のクモ学者 P. M. Dunin の書いているシベリア東部のクモの報文を入手した。ハエトリグモ32種、篩板類15種の分布を報じ、各種の♂の触 外雌器の図がある。取扱い地域は沿海州・カムチャツカ・ハバロフスク・アムール・サハリン・千島である。（ソ連語）

表題を英訳すると次のようである。

Dunin, P. M., 1984. Fauna & Ecology of the Insects of the Far East. 1. Salticidae. 2. Cribellatae. Vladivostok.

中国クモ学者趙敬釗氏来日

中国湖北大学副校長の趙敬釗氏は日本蜘蛛学会第20回大会参加を予定されていたが、パスポートとビザのおくれから、ついに間に合わなかった。来日を断念されたかと思っていたところ、8月29日急に船で大阪に到着された。八木沼宅を訪問後、神戸・京都・福井・東京をまわられ各地のクモ学者に会われた。通訳には神戸大学留学中の、趙先生と同じ湖北大学の熊新明さんが当たって下さった。大会に参加できず残念がっておられたが、各地で皆さんの熱烈歓迎をうけ、来た甲斐があったと喜んでおられた。京都では吉田真氏、東京では萱嶋泉氏・新海栄一氏・小野展嗣氏・国見裕久氏のお世話になり、大阪では関西メンバーの有志10人が集まり歓迎懇談会を開催した。9月19日大阪発の中国民航で帰国された。別れに際し「請代我向日本的大家问好」（日本の皆さんによろしく）と言われた。ご協力下さった各位に厚くお礼申し上げます。詳細はAtypusに掲載の予定。

(4頁より)

2. 新種

- | | |
|---|------------|
| 2-1. <i>Drassyllus sasakawai</i> Kamura, 1987 | ヤマヨリメクムリクモ |
| 2-2. <i>D. yaginumai</i> Kamura, 1987 | ヒメヨリメクムリクモ |
| 2-3. <i>Zelotes tortuosus</i> Kamura, 1987 | クワクムリクモ |
| 2-4. <i>Z. hayashii</i> Kamura, 1987 | コブシクムリクモ |
| 2-5. <i>Gnaphosa silvicola</i> Kamura, 1988 | モリメキクモ |

3. 日本新記録種

- | | |
|--|----------|
| 3-1. <i>Zelotes potanini</i> Schenkel, 1963 | ヒロメクムリクモ |
| 3-2. <i>Zelotes exiguus</i> (Müller et Schenkel, 1895) | ヒメクムリクモ |
| 3-3. <i>Gnaphosa alberti</i> Schenkel, 1963 | カワメキクモ |

4. 学名の変更・確定

- | | |
|--|--------------|
| 4-1. <i>Drassyllus sanmenesis</i> Platnick et Song, 1986 | ヒメヤマヨリメクムリクモ |
| 4-2. <i>Odontodrassus hondoensis</i> (Saito, 1939) | ヤマトコハクワシクモ |

5. その他の再記載: *Poecilochroa unifascigera*, *Zelotes asiaticus*, *Poecilochroa hosiziro*, *Kishidaia albimaculata*, *Callilepis schuszeri*, *C. nocturna* (「マミテオクモ」と命名), *Gnaphosa kompirensis*. (し)

小さな宇宙のために

井上晶子

身近に住む昆虫や魚、そして植物さえ、じっと見ていると自分と同じように思考があるのではないかと思えてくる。また、彼らの美醜、善悪、幸不幸計ってしまうのは、ヒトを基準に置いているからだろう。地上に息づくものは、進化したもののほどヒトに識られ支配されている。彼らは、ヒトに発見されずヒトから遠く離れるほど、自由に生きられる。

雨あがりの木の枝。そこに張り廻された無数の糸がある。光る水滴。風の中に、モンシロチョウが羽をたたんで横たわっている。そこに素早く彼女が現われ、容赦なくチョウに糸を掛けはじめたら、小さな空間に無数のドラマが見えてくる。太陽も雨も木々も、白い羽も、ただ彼女の姿態を輝かせるために存在する。

銀色の糸を織り、自分の身体よりも大きな獲物を毒の牙で殺す。外敵から身を守るために擬装や擬態を行う。これらのことだけでもクモは単純な美醜を越えている。その上、交渉（交尾）の後でめすグモがおすグモの身体を食らうということを知れば、そのむごたらしさが更に幻想をかきたてる。

クモたちは、彼らに取りつかれた人たちによって、見出され、名を与えられる。わたしは、未発見のクモたちが砂の中で、水の中で、雪の中で、名のない生きものとして、ひそやかにすさまじく生息しつづけるようにと願う。クモが何百年も何千年もヒトの前に姿を現わさなかったら、クモに取りつかれた人たちは、彼らを分類し生態を識ることを忘れ、まぼろしの小動物を求めて見知らぬ国を彷徨し、ついに魅惑的な物語を綴るだろう。

【目 次】

茶園のクモ余話 第4話 閑話休題	寺田孝重	1
(トビックス) 加村隆英博士誕生		4
細蟹舎通信 [9]	八木沼健夫	5
小さな宇宙のために	井上晶子	9
年越しをしたジョロウグモの雄	清水裕行	10

年越しをしたジョロウグモの雄

清水 裕 行

日本列島のジョロウグモ(*Nephila clavata*)の多くの個体は秋の終りには死んでしまうが、若干の個体は冬まで生き延びて、年を越すものもある。筆者がこれまでに年越し個体はすべて雌であったが、最近、一月下旬まで生存した雄を確認したので報告する。

1986年12月31日の筆者自宅(西宮市苦楽園四番町)の大掃除の際に、庭でジョロウグモの雄を発見した。とりもちのついた網の破片にしがみついていたので、雌も一緒だったかもしれない。この時期に雄をみるのは初めてなので、シャーレの中で飼育したところ、翌1988年の1月31日まで生きていた。その間、ショウジョウバエを1頭与えたが、ハエが活着しているときに攻撃した様子はなく、死んでからかぶりついていた。ジョロウグモの雄は成熟後は造網能力を失い雌の網に居候生活をするので、死んで動かない虫でも食うのかもしれない。

このクモの体長は3.5mmであった。ジョロウグモの雄は出現時期が遅いほど小さい傾向があるというが、本例はその中でも最小の部類に属するのではないだろうか。



(編集後記) 1年遅れで第6号をお届けします。今回の遅れは一に編集子の個人的事情によるもので、早くから原稿を書いて下さった執筆者の方々には申し訳ないことをしました。発行が遅れると原稿の集まりが悪くなり、更に発行間隔があくという悪循環になることは明白です。今後は、分量にこだわらずに、原稿が集まれば随時発行するような柔軟な体制でいきたいと思ひます。第7号の原稿は既に集まりつつあるので、間もなく発行できると思ひます。なお、本号からワープロの文字が従来の「16ドット」から「24ドット」に変わり、読みやすくなったと思ひます。今後も技術面での改善も進めていきたいと思ひます。(清水)